

## 加西病院の感染症対策と運営について



深田 照明 議員  
(21政会・加西ともに育つ会)

**問** 発熱外来受診者数と PCR 検査の状況は。

**答** 発熱外来受診者は令和 2 年 9 月が 16 件、10 月は 29 件、11 月は 46 件と増加しています。PCR 検査は加東健康福祉事務所からの行政検査、病院の発熱外来受診者を合わせて令和 2 年 10 月は 187 件、抗原検査は 186 件の計 373 件です。11 月に入り PCR の自費検査が始まりましたが、市内、市外を含めて自費件数は 88 件となっています。それを除く PCR 検

査は 317 件、抗原検査は 260 件の計 577 件となっています。

**問** 新型コロナウイルス感染症陽性者が増加しているこの時期に、市民のため診療業務に日夜頑張っている病院職員の給与削減を提案された理由は。また、医療者のモチベーションが低下し、退職者が増加して補充が困るなど計画より人員削減が進んで業務が回らなくなり、結果、病院を受診される方が減少し、給与削減による効果額より医業収益がより低下する悪循環になるという想定はされていないのか。

**答** 新型コロナウイルス感染症流行前より将来構想、新病院建設基本計画策定などの検討を進めており、経営安定化が新病院建設の前提で喫緊の課題です。市に頼るばかりではなく、病院職員一丸と

なって新病院建設に向けて固定経費削減と建設への強い決意を表明するための提案です。病院職員のモチベーションアップのための最大の目標は病院建て替えをスムーズに迎えることであり、一丸となって対応する必要があると考えます。ご指摘のような懸念を全くしていないのではなく、そういった状況に陥らないよう留意していきたいと考えます。医師については院長より医局会での説明、各科部長との個別面談を行い、十分な合意を得ているというのが現状で、職員にも給与カットについて丁寧に回数を重ねて説明し、協議しているところです。

### ■その他の質問項目

- ・ 保育待機児童の状況について
- ・ 学童保育での感染防止対策について

## 小野加東加西環境施設事務組合の状況について



衣笠 利則 議員  
(21政会・加西ともに育つ会)

**問** 小野クリーンセンターの状況について、全議員で認識を一つにし、今後の施設更新の議論に臨みたいとの思いで質問するが、まず、施設の設置期限や施設の耐用年数は。

**答** 平成元年に稼働し、設置期限は所在地の地元町との確約により 50 年、令和 21 年とされています。焼却炉等の施設は性能低下や摩耗の進行が早く、一般的には 20 年程度と言われており、小野クリーンセンターの焼却設備は約 10 年後には基幹的設備の更

新が必要とされています。

**問** 事務組合加入によるメリットとデメリットは。

**答** 加西市の加入により焼却炉稼働率が上がり、効率的な運転と炉の延命化が図られ、経費削減にもつながっていると考えます。一方、加西市からの搬出が遠距離になり、収集業務委託料が増加しています。

**問** 平成 26 年に加西市が加入した際の、廃炉時の撤去費用に関する 3 市の合意内容は。

**答** 小野クリーンセンターの廃炉費用は小野市と加東市が負担し、加西市には負担を求めない。ただし、加西市クリーンセンターの廃炉費用は加西市で負担することで合意しています。

**問** 小野市、加東市における廃炉に関する動きについて。

**答** 廃炉費用負担について、小野市では令和 2 年 10 月に議員協議会が開催され、加東市では令和 2 年 11 月に所管の委員会で説明があり、意見聴取されています。一部事務組合は複数の団体で構成され、運営の特殊性や構成市の考え方があり、それぞれの議会対応をされたと考えます。

**問** 小野クリーンセンターの今後に関する市長の考えは。

**答** (市長) 周辺整備も含め新しい施設をどのように造るのか、そして撤去の問題等を一体的に検討して方向性を出すことについて、管理者間では議論の緒についていたところと感じています。今後の社会のあり方、人口減少や環境問題等大きな視点での検討が大変重要で、管理者間でしっかり意見をまとめて議会に提案し、協議をしていただきたいと思います。